

安保破棄ニュース

No. 470
2016. 6. 3

安保破棄・諸要求貫徹大阪実行委員会

〒五四三-〇〇一四 大阪市天王寺区玉造元町一七一三
TEL 〇六-六七六三-三三三三
FAX 〇六-六七六三-三三三六
Eメール anpo-osk@abeam.ocn.ne.jp
ホームページ http://www.anpo-osk.jp

71人が怒りの抗議要請行動

～元米海兵隊員による女性遺体遺棄事件抗議～



うるま市で20歳の女性がウォーキングに出かけて行方不明になったことが、4月末に沖縄2紙で報道され、不吉な思いもしながら心配していました。5月19日に、7年間米海兵隊に所属し、その後嘉手納基地で軍属として働くシンザト・ケネフ・フランクリンが、沖縄県警に殺人容疑として逮捕されました。残忍な犯行で痛ましい事件です。

大阪安保は、米国大阪総領事館前で26日の16時30分から緊急の抗議要請行動を実施しました。3日後の提起というあわただしい中で、71人が集まりました。最初黙とうをささげ、団体から訴えを行い、オバマ大統領あての要請書も送付しました。手交しようとしたが、受け取らなかったためです。



事件のたびに、日米両政府は再発防止や綱紀粛正を主張しますが、翁長知事が「何百回も聞かされてきた」というように改められたことはありません。「基地あるが故の犯罪」ですから、基地の撤去を求めることが当然のことです。上野千鶴子さんは、「日本政府と米軍への『思いやり』はもうたくさんだ」と沖縄は言いたいだろう。その怒りは本土の私たちに向けられている（琉球新報5/31）と言い切っています。切り棄てられた島「沖縄」は、1972年日本への返還後も、県土0.6%に74%の米軍基地が継続しています。沖縄に赴任した米兵への研修では、「沖縄県民を見下す教育」がされ、日米地位協定で公務中なら犯罪をやっても日本の警察に逮捕されない特権である状態。そして何よりも中東などの戦場へ行くための人殺しの訓練と実戦が暴力性と非人間性を生み出しています。

6月19日(日)14時からセルラー球場で県民大会が開催されます。大阪安保ではこの大会派遣を行うとともに、今後もこの事件に向き合う取り組みを進めます。

「辺野古新基地は許さない学習会」を終えて



昨年12月から、辺野古新基地をめぐる国からの代執行裁判が始まったことで、この問題点や裁判経緯を大阪安保として連続して追及することを心がけました。自由法曹団の西晃弁護士と事務局長の植田とで連続した学習会を3回開催してきました。その3回目(5月13日(金)18:30、エルおおさかで)行われ、「裁判『和解』後の

状況と沖縄県議選などの情勢」植田保二、「国関与を問う裁判の行方と地方自治」西晃弁護士と二人の報告の後、質疑応答や討論を進めてきました。現在、総務省の国地方係争処理委員会で行行政内容の検討が行われ、いづれにしても裁判がまた始まります。安倍首相がどうして「和解」に応じざるを得なかったかその法的な整理となりました。

ちょうど自治体研究社「辺野古から問う日本の地方自治」も出版され、民主主義と人権を守り発展させる「地方自治」の大切さが、辺野古問題を通じて浮かび上がっています。大阪では維新政治のために、「地方自治」が形骸化しました。辺野古問題でも日本の民主化の重要なツールとして、「地方自治」再興の動きがあることを確信に奮闘することが求められています。「沖縄県議選の具体的な状況、参院選、比例区の重要性もなるほどと思った」「これからの沖縄のたたかいは希望が湧いた」などと感想が寄せられました。

「京丹後米軍基地と戦争法を問う」緊急学習集会に参加して

5月20日(金)、ラポール京都で行われた緊急学習集会に参加しました。現地京丹後で、毎日監視活動が続ける宇川憂う会の永井友昭氏は、北朝鮮のミサイル発射前には、京丹後米軍基地で米兵や軍属などが平常よりも多く、あわただしく活動する実態があり、予測がつくと報告されました。また、米兵や軍属による交通事故が多くなっている実態も報告され、日本の免許証なしのため、日本の交通ルール指導や罰則など手厳しい措置が必要である現状も訴えられました。井上とし参議院議員は、防衛・外交委員会のメンバーと初めて基地内を見学・視察した報告をしました。第14ミサイル防衛中隊中隊長のカルデナス少佐が説明し、全体の任務は「日本及び米国の防衛」と説明したが、リーダーの目的では「米国西海岸、ハワイ、グアムに向けられた北朝鮮のミサイルの対応を強化」と米国防衛が主任務であることは明らかでした。ハワイのヒツカム空軍基地のセンサーマネージャーに情報を交信された後、太平洋担当地域のセンサー(米イージス艦など)や日本の自衛隊横田空軍基地防空連絡隊にも配信されるといいます。

日米ガイドラインでも、人工衛星を使った宇宙規模での日米同盟による通信網の交流がうたわれています。その重要な役割を担う米京丹後基地は、相手国からの標的の危険性が高まるばかりとなります。騒音問題、米兵の事故や犯罪への警戒などに取り組み、住民自らの撤退要求にまともな長期のたたかいはなりません。支援活動をさらに強めていきます。(文責・植田)

オール沖縄からオールジャパンへ

「辺野古連帯・沖縄県議選支援行動に参加して」

(長谷 博之)

5月20日～22日の日程で行われた、安保破棄中央実行委員会呼びかけの「辺野古連帯・沖縄県議選支援行動」に行ってきました。

沖縄についてすぐに買った琉球新報の一面に「米軍属逮捕」の大きな文字。行方不明になっていた20歳の女性が遺体として発見され、その犯人（元海兵隊員）が逮捕されたという一報。許しがたい思いでした。今回は大きな集会に参加する機会はありませんでしたが、座り込み参加者、選挙事務所の人達、タクシーの運転手さんも、この事件に対しての怒り、悲しみ、憤りを口に出していました。



辺野古連帯行動としては、キャンプシュワブゲート前での座り込みに参加した後、辺野古・大浦湾の「臨時制限区域」とされている区域を船で回りまわした。日本政府が沖縄県を訴えていた裁判が実質、沖縄県側の勝訴といえる和解に至ったことで、埋め立て工事はストップし、今まで制限区域を示していたフロートの多くは撤去されていた。しかし、海に沈められているトンブロックはそのままということです。防衛局に雇われた警備の船がひたすら「ここは臨時制限区域です」と警告を続けていました。船から見えたキャンプシュワブ内の浜辺では、米兵たちがはしゃいで遊んでいました。元同僚が残忍な事件を起こしたというのに、こういう神経をしているのかと怒りを感じました。米軍基地があるが故に起きた残忍な事件。これを沖縄だけの問題とするわけにはいきません。日本全体の問題として捉え、「米軍基地撤去。これ以上増やすなんてとんでもない!!」の思いを、怒りを込めて全国に広げていくことが絶対に必要だと強く感じます。

当面の予定

2016年

6月

- 5日(日) 大阪母親大会 (10:00~エル大阪)
沖縄県議選投票日
- 10日(金) わかもの集まれ! 沖縄いこかの会
ツアー総括&交流会
- 19日(日) 沖縄県民大会 (セルラースタジアム)
忠岡町母親大会
- 22日(水) 参議院選挙公示日
- 30日(木) 大阪平和行進 (~6/7)

7月

- 10日(日) 参議院選挙投票日
- 13日(水) 常任幹事会 (10:00~大阪安保)
- 22日(金) 23 定例宣伝行動 (12:00~淀屋橋)

8月

- 3日(水) 常任幹事会 (10:00~大阪安保)
- 4日(木) 原水禁世界大会 (~6日)
- 23日(火) 23 定例宣伝行動 (12:00~淀屋橋)
- 26日(金) 大阪安保後半幹事会 (18:30~国労会館)

安保破棄大阪実行委員会 2016 年後半幹事会

日時：8月26日(金) 18:30~
場所：国労会館 1階ホール

参議院選挙のあとの情勢を踏まえ、その後の運動方針などを決定するために大切な会議です。

討論中心の内容となりますので、各加盟団体からのご出席をお願いします。

5月 23 宣伝行動



5月の23定例宣伝行動は、23日(月)に行いました。平和友好大阪連絡会の「戦争法廃止を求める署名行動」としてだけでなく、「沖縄米軍属による女性死体遺棄事件に対する抗議行動」の一環としても急きょ位置づけました。

大阪労連女性部、うたごえ協議会、平和遺族会、AALA、民医連、原水協からうったえをしてもらいました。弁士が初めてという人も原稿を作り、自分の言葉でしっかりとうたえられていました。医療分野からのうたえは「軍事費を削って暮らしに回せ」ということの大切さがしっかりとつかめるものでした。

通行人との対話の中では、戦争法のことだけでなく、生活問題、労働問題に関するものもありました。

9団体から25人の参加で、署名も26筆集めることができました。ビラの受け取りもいつもより良く、宣伝カーに下げている普天間基地のタペストリーや弁士の方を見ながら歩いていく人が多くいました。

2日目からは、沖縄県議選支援の行動でしたが、翁長知事を支える県政与党を安定多数にするための行動を行いました。路地裏の方は、まだまだ選挙ムードが盛り上がりつつあるとはいえないように感じましたが、反応は良く、うたえを聞いてくれた人が、「次はあつちでやるといいよ。あそこにもマンションあるからね。」と教えてくれたり、車から手を振ってくれたりの反応もありました。

沖縄県議選の約1か月後には参議院選挙。沖縄の闘いだけでなく、沖縄で起こっている問題を日本全体のこととして全国がしっかりと捉え、オールジャパンの流れをつくっていくことが本当に大切だとあらためて強く感じました。そのために大阪で何ができるのか、何をしないといけないのかをしっかりと考え行動していこうと思っていました。

